農地解放の研究　杉本　壽著　巌南堂書店
昭和五六年十二月刊　二二七頁

本書は戦後の農地改革に当たり、大野郡穴馬村における刈分地をめぐる裁判の訴訟過程の克明な考察分析により、「農地解放」の歴史的性格を明確にせんとした研究書である。全八章からなり、㈠刈分慣行制度の耕作権的主体性㈡買収決定前後における調停経緯㈢上穴馬村農地委員会における係争過程㈣福井県農地部における取扱経過㈤福井地方裁判所の判決及びその対応㈥農地買収計画決定取消請求棄却判決の取消㈦上告代理人の上告理由㈧農地買収計画決定取消請求棄却判決の取消判決に対する上告棄却と体系化した論述を展開する。

実は原告（大野郡上穴馬村野尻、尾崎邦夫）が所持する刈分地の農地買収計画につき、福井地裁により、計画決定取消請求が棄却されたのが、名古屋高裁により取消され、ついでその全面破棄を求める県の上告が最高裁で棄却されるという全国的に全く異例な訴訟事件であるだけに、その過程において、かねての著者の山村経済に特有な刈分地の精密な研究業績が如実に反映した点で、甚だ興味深いものがある。

（三上一夫）